

# ふくちやま まちあるきマップ 城下町 まちなみ探訪編

福知山には、城下町の名残を思わせる町家や明治～昭和にかけてのレトロな建物など古いものと新しいものが共存しています。市民交流プラザから、少し目線を変えていつものまちを歩いてみましょう。ちがった景色が見えてくるかもしれません。

所要時間  
徒歩  
約50分  
(見学時間除く)



## 1 惇明小学校本館

惇明小学校は江戸時代(文化6年)に始まった藩校「惇明館」を起源とする、福知山市で最初の学校です。大小の丸窓をリスミカルに配置したモダンな外観が目を引き本館は、昭和12年に建てられた鉄骨建築で、国の有形文化財に登録されています。

## 6 下柳町

京口橋から城下町内を南北に貫通する京街道～丹後街道沿いにある、かつては料亭や旅館、呉服屋などの商家や町家が連なるにぎやかなまちなみでした。京都銀行の頭取であった故片岡久兵衛氏の別邸も国の有形文化財に登録されています。

## 7 治水記念館

福知山市の治水の歩みを展示しています。城下町は低湿地を開拓してつくられており、その歴史は由良川の水害との戦いの歴史でもありました。この建物は、明治時代初期の呉服店の町家を改修したもので、家の中には水害の被害を抑えるための工夫が見られます。

## 8 谷垣酒店

明治29年創業の造り酒屋です(現在は販売のみ)。昼間は間口を大きくするためロープで玄関戸を引上げていますが、夜間は下げて戸締りし、2重の引き戸で出入りするというつり上げ式の玄関戸「大戸(おおど)」(今で言うところのシャッター)が現役で使われています。

## 9 広小路商店街

福知山の城下町はたびたび大火に見舞われ、福知山藩は類焼を防ぐために、町屋地区の中央を拡幅し「広小路」と称しました。近世以降は由良川水運の港として、北近畿の商業の中心地として発展し有数の歓楽街となりました。現在、町家がかつての城下町風に修景し、カフェやバーなどが集まる新しいまちづくりがスタートしています。

## 2 福知山城

天正7年(1579年)頃、明智光秀が築城したと伝えられ、往年の絵図を元に復元された天守閣は、まちのシンボルになっています。天守からは城下町と由良川が一望できます。実はこの城下町、もともとは何もなかった河原だったそうです。

## 10 ゲンゼ旧福知山工場

大正9年、製糸工場として設立されたゲンゼの工場です。昭和4年築の事務所や、六角形の門衛所などが当時のまま残されています。福知山工場は、肌着製造に転換以降、長年福知山の発展の一翼を担っていました。

## 3 旧松村家住宅

明治から大正にかけて建築された京都府指定有形文化財登録の建物群です。主屋や洋館、撞球場などからなる和洋折衷のモダンな佇まいで、現在は和洋菓子店「足立音衛門」本店として利用されています。

## 11 御霊神社

明智光秀を祀った神社です。1705年の創建で、光秀の善政が後世にも伝わり、ずっと慕われていたことがしのべられます。社殿のあちこちに明智家の家紋「桔梗紋」が配られています。境内にある「叶石」は、祈れば願いが叶うといわれる知る人ぞ知るパワースポットです。

## 4 新町商店街

昭和レトロの趣を残すアーケード商店街。昭和時代に設置された看板や建物が数多く残り、まるでレトロな商店街の見本のような通りです。かつては北近畿の商業の中心地として多くの人が集まり、まっすぐ歩けないほどの賑わいでした。

## 12 桐村眼科医院

三連のアーチ窓が印象的な昭和10年代築の、旧両丹銀行本町支店です。京都の人に認められるよう、地元の財界人が尽力した、小さいながらも立派な建物です。ちなみに旧両丹銀行は、周辺の銀行と合併し、その後、現在の京都銀行となりました。

## 5 櫻湯

新町通りの隣、長町通りにある明治37年創業の老舗で、洋風の外観や曇りガラスなどモダンな雰囲気の銭湯です。番台や脱衣所、きれいに貼られたタイルなど、まさに古き良き日本の銭湯。全国各地から銭湯好きが訪れるという隠れた名所です。

## 13 旧福知山信用金庫本店

昭和10年頃の竣工で、幅の狭い窓や、細部の装飾が印象的な、質素ながらも大変美しい建物です。旧福知山信用金庫の本店として長く利用されていました。現在は和洋菓子店「丹波鶴屋」の店舗として利用されています。

